

新型コロナウイルス感染症の影響と公文協の取組等（事務局参考資料）

専務理事兼事務局長 松本 辰明

（以下は5月に事務局から各会員の皆様にお送りしたもので時間が経過し状況も変化しておりますが、参考に当フォーラムに掲載いたします。）

日頃より当協会の事業につきまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、公演の中止や施設の閉館を余儀なくされ、また、緊急事態宣言が発出されて以降、全く先行きが見えない中で、身動きが取れない状況が続き、施設の運営に大変苦慮されていることと存じます。

5月に入って、全国的に感染者の増加傾向にやや歯止めがかかり、5月16日から首都圏など一部の特定警戒地域を除き緊急事態宣言が解除されました。そして、間もなくすべての地域での宣言解除が本格化する段階に至っています。

しかしながら、宣言が解除されたとしても、一旦停止した活動がもとのレベルに回復するには、相当の期間を要するとともに、依然として感染拡大の第2波がいつ再来するかは予断を許さない状況であり、一刻も早い再開を目指すとしても、万全の感染症予防対策を講じた上で、段階的な再開の方策を検討していく必要があります。

当協会といたしましても、これまでコロナウイルス感染症拡大に対して、国や各自治体に緊急要請を行うとともに、施設への影響に関する緊急調査の実施、指定管理者制度の適切な運用についての総務省への要請など、鋭意取り組んでまいりました。こうした取組により、十分とはいえませんが、国から自治体への速やかな通知や国の補正予算のなかに劇場・音楽堂等への支援措置を組み込むなど具体的な成果につなげることができました。

さらに、5月14日には、国からの要請に基づき、劇場、音楽堂等の活動再開に向けた「予防ガイドライン」を作成し公表しました。役員はじめ皆様の意見集約の期間も短く、各団体等とのすり合わせや専門家会議の確認等もあり、皆様の期待に十分お応えできていない点多々あるかと存じますが、それぞれの地域での方針や状況を踏まえ、活動再開を検討するにあたっての参考にさせていただければ幸いです。

次に、当協会の運営や事業に対する影響についても、ご報告させていただきます。

この未曾有の事態を受け、公文協歌舞伎につきましては、大変残念ではございましたが、4月の東コース、5月の西コースはすでに中止とし、9月に予定しております中央コースについても中止となる見込みです。公文協歌舞伎は50年以上にわたって実施してまいりましたが、全公演が中止となるのは今回が初めてのことです。開催館の皆様には、直前までご準備いただいていたにも関わらず、このような措置をとらざるをえなかったことについて改めてお詫び申し上げます。

また、6月に愛知での開催を予定しておりました研究大会は中止とさせていただくこととし、今年度第1回理事会も中止し書面決議とさせていただくこととなりました。研究大会の開催に併せて開催を予定しておりました定期総会は規模を縮小し、役員を中心に少人数で東京において開催することとなりました。

本来なら、こうした未曾有の事態であればこそ、皆様と一堂に会して共に考え解決策を話し合う必要を強く感じておりますが、感染症予防の観点からやむなくこのような方法をとらざるをえなくなりました。

なお、今回の定時総会では、定款の変更があり、決議にあたっては総正会員の3分の2以上の賛成を要することから、議案書と議決権行使書を事前にお送りしますので、書面はがきのご返送にご協力を賜りますようお願いいたします。

事務局では、国や都の要請を受け3月末より交替での在宅勤務となっており、お問い合わせ等の対応が遅れるなどご迷惑をおかけしていることかと存じます。今年度の事業の実施については、収束状況を見据えつつ実施の検討を随時進めているところです。また、すでに申し上げましたように補正予算で施設の再開に向けた文化庁の「文化施設の感染症防止対策事業（補助金）」については、当協会が申請受付等の事務局業務を担うことになり、間もなく募集開始をいたしますので、ぜひご活用をご検討いただければ幸いです。

新型コロナを一挙に駆逐することは困難であり、感染症を正しく恐れ、賢く避けながら“新たな日常”を構築し、人々の心の健康に不可欠な文化・芸術を届けるという我々のミッションを果たしていくために、我々は何をなすべきかを真剣に考えていかなければなりません。そのために、これからの難局を乗り越えるためのアイデアや提言、好事例を皆様から広く募集し、情報共有する場を作ることを検討しております。具体化しましたら、ぜひ、ご協力いただきたいと存じます。

最後になりますが、不測の事態への対応に追われる中、会員の皆様や関係各位からご協力を賜りましたことに改めて心より御礼申し上げます。遠からず、再び皆様と当たり前にお会いできる日が訪れますようお願いしております。